

## I. 評価指標関係(文部科学省への必須報告分)

【地方創生や「食・農」に関わる事業】

1. 地方創生や「食・農」に関わる委員会等への参画や地域課題把握のための機会の増加状況
  - (1) 関係自治体委員会等への参画
  - (2) 地方創生会議やリエンサロンの開催
2. 地方創生や「食・農」に関わる研究成果を創出し、共同研究・寄付講義の受託への発展状況
  - (1) 寄付講義
  - (2) 受託・共同研究
3. 地方創生や「食・農」に関わる研究成果の地域への還元機会の増加
  - (1) 研究成果の公表
  - (2) セミナーでの報告・提言

## II. 独自項目関係

4. その他
  - (1) 学会発表・研究会報告
  - (2) 競争的資金等による研究活動
  - (3) 寄付金の受入
  - (4) 特許の出願
  - (5) その他(雑誌論説、研究報告書・研究資料、新聞記事、テレビ・ラジオ出演など)
5. 研究所活動
  - (1) 運営委員会 食農アドバイザー会議
  - (2) 所内会議
  - (3) 研究ユニット会議
  - (4) 教育活動への寄与
  - (5) 研究所成果報告・研究年報・研究所だよりなど
6. 参考資料(別添資料)

食農総合研究所設置要項・運営委員会規程・名簿、食農協議会規約・名簿、食農アドバイザーボード規約・名簿、研究ユニット名簿等

1- (1) 地方創生や「食・農」に関わる関係自治体の審議会・委員会における有識者委員としての参画：10件／年

※和歌山圏域および国関係の機関のみ。

氏名	審議会等の名称	資格	主催	団体種別	備考
1 大浦由美	和歌山県土地利用審査会	委員	和歌山県	県・公共	
2 大浦由美	和歌山県内水面漁場管理委員会	委員	和歌山県	県・公共	
3 大浦由美	和歌山県紀の国森づくり基金運営委員会	委員長	和歌山県	県・公共	
4 大浦由美	和歌山県森林審議会	委員	和歌山県	県・公共	
5 大浦由美	和歌山県環境審議会	委員	和歌山県	県・公共	
6 大浦由美	田辺市熊野古道の森保全委員会	委員	田辺市	市・公共	
7 藤田武弘	子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業審査委員会	審査委員	総務省	国	
8 藤田武弘	和歌山県卸売市場審議会	会長	和歌山県	県・公共	
9 藤田武弘	わかやま和み暮らし推進協議会	会長	和歌山県	県・公共	
10 藤田武弘	和歌山食材テロール事業検討委員会	会長	和歌山県	県・公共	
11 藤田武弘	和歌山県グリーン・ツーリズム推進委員会	委員長	和歌山県	県・公共	
12 藤田武弘	和歌山県農水産物・加工食品輸出促進協議会	委員	和歌山県	県・公共	
13 藤田武弘	みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会	委員	みなべ町・田辺市	市町・公共	
14 藤田武弘	日本農業賞審査委員	委員長	和歌山県農業協同組合中央会	団体	
15 藤田武弘	地域包括連携推進委員会	委員長	紀美野町・和歌山大学	町・公共	
16 岸上光克	和歌山県農業農村振興委員会 日本型直接支払制度推進部会	委員・部長	和歌山県	県・公共	
17 岸上光克	和歌山県農業農村振興委員会 農業及び農山村の振興に係る第3者部会	委員	和歌山県	県・公共	
18 岸上光克	和歌山県農林水産部所管公募型プロポーザル方式等事業選定委員会	委員	和歌山県	県・公共	
19 岸上光克	和歌山県グリーン・ツーリズム推進会議	委員	和歌山県	県・公共	
20 岸上光克	和歌山県食育推進会議	会長	和歌山県	県・公共	
21 岸上光克	和歌山県農業改良普及連絡協議会	委員	和歌山県	県・公共	
22 岸上光克	和歌山市防災会議	委員	和歌山市	市・公共	
23 岸上光克	地域包括連携推進委員会	委員	紀美野町・和歌山大学	町・公共	
24 岸上光克	きのくに活性化センター企画運営委員会	委員	きのくに活性化センター	その他	
25 岸上光克	紀美野町新商品開発プロジェクト	委員	紀美野町まらづくり推進協議会	町・公共	
26 岸上光克	令和元年度わかやま農商工連携ファンド事業審査委員会	委員	わかやま産業振興財団	公益財団法人	

1- (1) 地方創生や「食・農」に関わる関係自治体の審議会・委員会における有識者委員としての参画：10件／年

※和歌山圏域および国関係の機関のみ。

氏名	審議会等の名称	資格	主催	団体種別	備考
27 岸上光克	令和2年度わかやま中小企業元気ファンド事業及びわかやま農商工連携ファンド事業第1次審査委員会	委員	わかやま産業振興財団	公益財団法人	
28 岸上光克	マーケットインに対応した園芸産地づくりのあり方に関する研究会	委員	日本協同組合連携機構	一般社団法人	
29 岸上光克	国産食肉等新需要創出緊急対策事業 優良事例調査委員会	委員	日本食肉消費総合センター	公益財団法人	
30 戴容秦思	国産食肉等新需要創出緊急対策事業 優良事例調査委員会	委員	日本食肉消費総合センター	公益財団法人	
31 辻和良	紀北農芸高等学校運営協議会	委員	和歌山県立紀北農芸高校	県・公共	
32 植田淳子	農泊 食文化海外発信地域	有識者委員	農林水産省	国	
33 湯崎真梨子	和歌山県農業会議	理事・常任委員	和歌山県農業会議	一般社団法人	
34 湯崎真梨子	「知」の集積による産学連携支援事業企画審査委員会	委員	農林水産省農林水産技術会議	国	
35 湯崎真梨子	和歌山県工業技術センター評価委員会	委員	和歌山県工業技術センター	県・公共	
36 湯崎真梨子	和歌山県固定資産評価審査委員会	委員	和歌山県	県・公共	
37 湯崎真梨子	近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会	委員	国土交通省近畿地方整備局, 独立行政法人水資源機構	国	
38 湯崎真梨子	紀の川流域懇談会	委員	国土交通省近畿地方整備局	国	
39 湯崎真梨子	和歌山県立情報交流センター-SOHOブームス入居等審査部会	委員長	和歌山県	県・公共	

1-(2)A 地方創生や「食・農」に関わる課題抽出の場としての「地方創生推進協議会」の開催：3回／年

開催日	名称	場所	参加人数	会議内容
1 令和1年5月28日	地方創生推進・食農協議会	和歌山大学 南1号館 共通会議室	2人	1)食農総合研究所の概要 2)食農総合研究所の事業報告 3)食農総合研究所事業計画 4)意見交換 5)その他
2 令和1年5月28日	地方創生推進・食農協議会実務者会議	和歌山大学 南1号館 共通会議室	4人	1)食農総合研究所の概要 2)食農総合研究所の事業報告 3)食農総合研究所事業計画 4)意見交換 5)その他

1-(2)B 地方創生や「食・農」に関わる情報交流の場としての「リエゾンサロン」の開催：3回／年

開催日	名称	テーマ等	講師・報告者等	場所	参加人数	開催内容等
令和1年5月30日	『続・和歌山県農業展開史』研究会(第1回)	和歌山県農業展開史	報告1 農業情報利用の展開 株式会社 citrus 佐々木 茂明 報告2 和歌山市の野菜生産の変遷 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良 JAわかやま 池田 信義	経済学部5階第3会議室	14人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年6月20日	『続・和歌山県農業展開史』学内研究会(第1回)	和歌山県農業展開史	報告 ヲメ産地の展開 和歌山大学食農総合研究所 岸上 光克	経済学部5階第3会議室	6人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年6月25日	食農総合研究所公開セミナー	商品コンセプト実現と安全・安心 ～原料へのこだわり～	NPO法人食の安全と安心を科学する会 副理事長 阿紀 雅敏	産学連携イノベーションセンター 多目的研究室	39人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年7月24日	『続・和歌山県農業展開史』研究会(第2回)	和歌山県農業展開史	報告1 農業改良普及事業の展開 元 和歌山県農業大学校長 向井 元治 報告2 サンショウ産地の展開 和歌山大学食農総合研究所 戴容 泰思 和歌山大学 藤井 至 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良 報告3 農産物直売所の動向 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良	経済学部5階第3会議室	13人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年8月23日	都市農村共生研究ユニット現地交流会	一般社団法人南紀州交流公社の取組み	一般社団法人南紀州交流公社 事務局長 佐本 真志	一般社団法人南紀州交流公社	10人	現地での講演のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年8月29日	『続・和歌山県農業展開史』学内研究会(第2回)	和歌山県農業展開史	報告 穀物と工業作物の生産量の経年変化から見た和歌山県農業の変化 和歌山大学食農総合研究所 秋本 敏夫	南1号館3階共通会議室	5人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年9月19日	『続・和歌山県農業展開史』研究会(第3回)	和歌山県農業展開史	報告1 和歌山県における野菜・花きに関する試験研究の歩み 和歌山県農業試験場 島 浩二 報告2 和歌山県におけるカンキツに関する試験研究の歩み 和歌山県果樹試験場 島津 康 報告3 農業経営の動向 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良	経済学部5階第3会議室	7人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年10月7日	元生活改良普及員(専門技術員)座談会	農村生活の変遷と生活改善普及事業	報告1 私の生活改良普及員としての活動 元和歌山県農林水産部専門技術員 中谷 多嘉子 報告2 むらづくり活動に取り組んで 同上 東 祥子 報告3 生き生きと輝く農家女性の育成 同上 土橋 ひさ	経済学部5階第3会議室	6人	報告のあと意見交換を行った。

1-(2)B 地方創生や「食・農」に関わる情報交流の場としての「リエゾンサロン」の開催：3回／年

開催日	名称	テーマ等	講師・報告者等	場所	参加人数	開催内容等
令和1年10月17日	『続・和歌山県農業展開史』学内研究会(第3回)	和歌山県農業展開史	報告 日高地方におけるエンドウ産地の展開過程 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良	経済学部5階第3会議室	4人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年11月7日	都市農村共生研究ユニット研究セミナー	拠点づくりから農山村再生-田園回帰時代の新たな農村計画論-	神戸大学大学院農学研究科 准教授 中塚 雅也	和歌山大学 北4号館 (産学連携イノベーションセンター) 多目的研究室	26人	講演のあと、意見交換・情報交換を行った。
令和1年11月15日	種子生理生化学研究会 和歌山大学食農総合研究所共催公開講演会	健康寿命100歳越を目指した作物種子・果実の品質向上に向けて	報告1 種子生理生化学研究会40年の歩み 種子生理生化学研究会 原田 久也 報告2 食品の秘められた力ー骨粗鬆症の予防と記憶減衰の抑制 京都女子大学家政学部 川村 幸雄 報告3 腸内細菌叢から考える食品ポリフェノールの生理機能 甲南女子大学医学部 寺尾 純二 報告4 和歌山県の特産品 梅と山椒の機能性 和歌山大学食農総合研究所 三谷 隆彦 報告5 健康機能性米の開発と美用化ースギ花粉米を中心にー 報告6 澱粉の構造制御からユニークな新品種育成まで 秋田県立大学生物資源学部 藤田 直子	和歌山商工会議所4階大ホール	53人	報告のあと、意見交換・情報交換を行った。
令和1年11月20日	『続・和歌山県農業展開史』研究会(第4回)	和歌山県農業展開史	報告1 産地形成と出荷・販売対応 和歌山大学食農総合研究所 岸上 光克 和歌山大学 藤田 武弘 報告2 教育旅行の展開と課題 和歌山大学食農総合研究所 植田 淳子 和歌山県果樹園芸課 芝 めぐみ 報告3 移住・定住政策の変遷 和歌山県企業立地課 阪井 加寿子 報告4 農山村への移住・定住の現場 和歌山大学食農総合研究所 湯崎 真梨子	南1号館3階共通会議室	13人	報告のあと意見交換・情報交換を行った。
令和1年11月25日	現地研究会	農業・農村生活体験のビジネス化	講演1 グリーントーンリズムの展開と推進上の課題 和歌山大学食農総合研究所 植田 淳子 講演2 中山間地域を活かすー人こそが地域を創るー 日高川町ゆめ倶楽部21前会長 原見 知子	熊野川総合開発センター 研修室	61人	現地での講演のあと、意見交換・情報交換を行った。

1-(2)B 地方創生や「食・農」に関わる情報交流の場としての「リエゾンサロン」の開催：3回／年

開催日	名称	テーマ等	講師・報告者等	場所	参加人数	開催内容等
14 令和1年12月9日	現地研究会	地方創生時代の農産物直売所に求められる機能と新たな運営方式 — 交流・体験型直売所の展開を中心に —	報告1 農産物直売所の展開と近年の多様な取り組み 和歌山大学食農総合研究所 岸上 光克 報告2 農産物直売所出荷者の顧客との交流と出荷行動 千葉大学大学院園芸学研究所 櫻井 清一 報告3 農産物直売所における出荷者の交流意識と生産 ・出荷行動 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良 報告4 加工グループ活動が農家女性の意識と行動に及ぼす影響 和歌山大学食農総合研究所 植田 淳子 報告5 農業体験参加者の交流・体験活動への参加意識 和歌山大学食農総合研究所 辻 和良 報告へのコメント 農産物直売所への期待と求められる機能・役割 和歌山大学 藤田 武弘	JA紀の里 めっけもん広場 葉農クラブハウス	19人	現地での報告のあと、意見交換・情報交換を行った。 (本研究会はISPS科研費17K07992による研究成果報告会を兼ねる)

2-1(1)A 寄付講義の開講(学部開放科目としてリカレント教育にも対応)の開講:1科目(一般受講者10名、学生20名以上)／年

講義名	講義内容	受講者	講義の目的・成果	備考
食と農のこれからを考える 学部開放科目 (後期)	<p>日本の豊かな食を支える農業、農村は危機的状況にある。一方で、近年、全国の農村では活性化に向けて様々な取組がみられる。国も「地方創生」を言葉として、農業、農村を応援している。本講義では、食と農の関係性の変化を把握するとともに、農業経営や都市農村交流、そして地域づくりについて現状と課題を把握し、今後の展開について検討する。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p><b>【01】</b>現代の食料・農業・農村(岸上光克:和歌山大学食農総合研究所)10月1日</p> <p><b>【02】</b>JAわかやまの概要と多様な取り組み/JAわかやまによる和歌山市の農業振興 (JAわかやま前年度受講生有志)10月8日</p> <p><b>【03】</b>地方創生と農の6次産業化(内藤重之:琉球大学)10月15日</p> <p><b>【04】</b>日本版ガストロノミーと食文化(尾藤環:辻調理師専門学校)10月29日</p> <p><b>【05】</b>～秋津野の地域づくりは、食と農がベース～(木村則夫:株式会社秋津野)11月12日</p> <p><b>【06】</b>地域における食育の推進(三國和美:紀の川市食育推進会議)11月19日</p> <p><b>【07】</b>田園回帰時代のライフスタイル(辻和良:和歌山大学食農総合研究所)11月26日</p> <p><b>【08】</b>農業・農村とジェンダー(植田淳子:和歌山大学食農総合研究所)12月3日</p> <p><b>【09】</b>農業・農村で活躍する女性(尾原浩子:日本農業新聞)12月10日</p> <p><b>【10】</b>都市農村交流の新段階(藤田武弘:和歌山大学観光学部)12月17日</p> <p><b>【11】</b>協同組合の現代的価値(岸上光克:和歌山大学食農総合研究所)12月24日</p> <p><b>【12】</b>住み継がれる集落をつくる一空き家の利活用を通じて一 (佐久間康富:和歌山大学システム工学部)1月7日</p> <p><b>【13】</b>「森林サービス産業」の創出に向けて～新たな森と人のかかわり「Forest Style」の創造～ (木俣知大:国土緑化推進機構)1月14日</p> <p><b>【14】</b>農業へのIT活用(佐々木茂明:株式会社citrus)1月21日</p> <p><b>【15】</b>若手農業者と語る「食と農のこれから」(大浦由美:再掲+県内若手農業後継者等)1月28日</p> <p>松下記巳子:JAフアームわかやま 宇田洋孝:JAフアームわかやま農業技術習得後就農 上村玲乃:和歌山大学観光学部2年 坂東紀好:JAわかやま代表理事組合長</p>	250人	講義の総括およびそれぞれの視座から提供される。講義のコーディネーターは主任講師がとめるが、産官学地域連携の視点からも講師陣に加えるほか、農村地域再生にかかわる全国的議論をリードする大卒学教員や実践者をゲストスピーカーに迎えることで、時宜にかななった体系的のある学びの場を提供をめざす。	JAわかやま「寄付講義」 (主任講師: 岸上光克)



2-1(2) 地方創生や「食・農」に関わる自治体および関係団体からの受託・共同研究:2件/年

名称	予算規模	受託・共同研究別	委託元	研究代表者	参加教員	研究概要
1 岩出市ローカルブランディング計画(商品開発)	300,000	共同研究	岩出市	大浦由美	岸上光克 藤田武弘 戴容秦思 植田淳子	岩出市根来地区について、地域の特産品となる商品の開発を行う。
2 梅酢ポリフェノールの機能性に関する研究	4,000,000	共同研究	紀州田辺うめ振興協議会	大浦由美	三谷隆彦 山本奈美	梅酢ポリフェノールの機能性に関する試験のデータ解析と論文化、梅酢ポリフェノールの実機生産に関する基礎試験の実施。
3 市民農園の新たな展開方式による都市農業再生策に関する研究	300,000	共同研究	JAわかやま	藤田武弘	大浦由美 植田淳子 藤井至	東京都練馬区と和歌山市内の農業体験農園の経営比較分析を実施。和歌山市内モデル園区における収穫量モニタリング調査を実施。

3- (1) 地方創生や「食・農」に関わる研究成果(学術図書・学術論文等の公表): 5編以上/年

氏名	タイトル	発行所	掲載誌・書名 巻号・頁数	発行年	業績内容	査読の有無	備考	概要
1 藤田武弘	観光をめぐる新たな潮流と地域農業・食料市場	日本農業市場学会	農業市場研究 第27巻 3号、pp.3-12	平成30年12月	学術論文	有	単著	
2 辻和良・植田淳子	大規模農産物直売所における出荷者の交流意識と生産・出荷行動	日本農業市場学会	農業市場研究第28巻第1号、pp.42-48	令和1年6月	学術論文	有	共著	
3 杉本敏男	Pattern analysis suggests that phosphoenolpyruvate carboxylase in maturing soybean seeds promotes the accumulation of protein	Taylor and Francis	Biosci.Biotech.Biochem.83(12) 2238-2243,https://doi.org/10.1080/09168451.2019.1648205	令和1年7月	学術論文	有	共著	
4 T. Mitani et al.,	Antiviral and virucidal activities against herpes simplex viruses of umesu phenolics extracted from Japanese apricot	日本細菌学会	Microbiology and Immunology, 63, 359-366	令和1年7月	学術論文	有	共著	
5 藤田武弘	農山漁村の過疎問題	丸善	日本農業経済学会編『農業経済学事典』(第13章:地域資源と農村に所収)、pp.464-465	令和1年11月	学術図書	有	単著	
6 杉本敏男	Nitrogen fixation affects yields and storage compound contents in seeds of field grown soybeans cv Enrei( <i>Glycine max</i> . L) and its suppressmodulating mutant Er-b0-1 through changing N2 fixation activity of the plants	Taylor and Francis	Soil Sci.Plant Nutri., https://doi.org/10.1080/00380768.2019.1692636	令和1年12月	学術論文	有	共著	
7 T.Mitani et al.,	Antiviral and virucidal activities of umesu phenolics on influenza viruses.	国立感染症研究所	Japanese Journal of Infectious Disease, 73, 8-13	令和2年1月	学術論文	有	共著	
8 杉本敏男	The plant-type phosphoenolpyruvate carboxylase Gmppe2 is developmentally induced in immature soy seeds at the late maturation stage: a potential protein biomarker for seed chemical composition.	Taylor and Francis	Biosci. Biotech. Biochem.,84, 2020 https://doi.org/10.1080/09168451.2019.1696179	令和2年3月	学術論文	有	共著	
9 鄭海晶・戴容秦思 根鎖・清水池義治	大手乳業メーカーの川上統合による生乳生産・流通への影響—ダミン事件以降の中国・内蒙古自治区を事例として—	北海道大学農学部	農経論叢 第73集、pp1-14	令和2年3月	学術論文	有	共著	

3- (1) 地方創生や「食・農」に関わる研究成果(学術図書・学術論文等の公表): 5編以上/年

氏名	タイトル	発行所	掲載誌・書名 巻号・頁数	発行年	業績内容	査読の有無	備考	概要
10 湯崎真梨子	農山村への移住/定住の現場ー和歌山県への移住の流れと移住者の「歴史」	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	単著	
11 辻和良・池田信義	和歌山市における野菜産地の展開ー砂地地帯を中心にー	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	共著	
12 辻和良	日高地方における未成熟エンドウ産地の展開過程	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	単著	
13 辻和良・光定伸晃	和歌山県におけるカキ産地の展開過程	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	共著	
14 戴谷泰思・藤井至・辻和良	和歌山県におけるサンショウ産地の展開	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	共著	
15 辻和良・森敏紀	和歌山県における農産物直売所の展開	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	共著	
16 枚本敏男	和歌山の伝統食品の素材作物や工芸作物の生産量の変遷	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	単著	
17 岸上光克・藤田武弘	和歌山県における産地形成と出荷・販売対応	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	共著	
18 植田淳子・芝めぐみ	農家民泊・教育旅行の展開と課題	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	共著	
19 岸上光克	和歌山県におけるウメ産地の動向ー2000年以降に注目してー	和歌山大学食農研究所	和歌山県農業展開史Ⅱ	令和2年3月	学術論文	無	単著	
20 植田淳子・辻和良・藤田武弘	加工グループ活動を通じた農家女性の意識と行動の変化ー農家女性の主体性に注目してー	日本農村生活学会	農村生活研究 第63巻第2号	令和2年3月	学術論文	有	共著	
21 杉本敏男	Pod experiment suggests that the low yield of a super-modulating soybean (Glycine max.L. Eir-b0-1) was caused by poor root development in field.	近畿作物育種研究会	作物研究 65号	令和2年5月	学術論文	有	受理済	

3- (2) 地方創生や「食・農」に関わる自治体および関係団体主催の講演・セミナーでの報告・提言：10件／年

氏名	小分類(講演会・研究会・セミナー等)	題目	講演会	主催	開催日	参加人数
1 辻和良	講演	みかん産地の労働力と担い手の確保 -西宇和みかん支援隊の事例を中心に- 消費者による食肉の潜在需要に関する一考察～中食・内食を中心に～	和歌山県農業士会研修会	和歌山県農業士会	平成31年4月12日	40人
2 戴容泰思	講演会		2019年第44回食肉産業展食肉情報セミナー 「地域プロデューサーとしての製菓技術者」育成講座	食肉産業展実行委員会	平成31年4月17日	38人
3 岸上光克	講演	和歌山の農業 食と農による地域活性化	アグリノベーションフューチャードスタディ高校生事前研修会	長野県飯田市	令和1年7月4日	40人
4 藤田武弘	報告会	現代における農業の新たな可能性を考える	営農指導員(上級)養成研修講義	JA和歌山県中央会	令和1年7月24日	35人
5 藤田武弘	講義	現代日本農業論	営農指導員(上級)養成研修	JA和歌山県中央会	令和1年8月7日	8人
6 岸上光克	講義	農産物マーケティング論	学輪IDA共通カリキュラム2019 アグリノベーションフューチャードスタディ	学輪IDA	令和1年8月8日	10人
7 岸上光克	基礎講義	日本農業の課題と展望	大阪府立大学 第1回 PFCセミナーⅢ	大阪府立大学	令和1年8月17日	100人
8 藤田武弘	講演	都市農村交流を通じた「食」と「農」の関係性再構築	全国地域リーダー養成塾一般講義	地域活性化センター・総務省	令和1年8月28日	25人
9 藤田武弘	講義	グリーン・ツーリズムによる地域づくり	第27回SUN・榛紀南農業者の集い	SUN・榛紀南農業者の集い実行委員会	令和1年8月30日	64人
10 岸上光克	基調講演	現在の食料・農業・農漁村を考える	萩源郷和東ビジネススカレッジ2019	京都府和束町	令和1年9月4日	100人
11 藤田武弘	講演	アグテイク・ラーニングとしての「農村体験学習」の現代的意義		和歌山県立医科大学	令和1年9月5日	22人
12 岸上光克	特別講義	和歌山の農業		日高振興局	令和1年10月24日	80人
13 植田淳子	研修会・ワークショップ 講師	日高地域体験型観光研修会 第2回「現状把握～課題の明確化～」	わかやま未来塾	和歌山大学 COC+推進室	令和1年10月29日	43人
14 岸上光克	特別講義	和歌山における農業とミカンの位置づけ	近畿6府県議員交流フォーラム	近畿6府県議会	令和1年11月2日	5人
15 大浦由美	研修会	地域再生と持続可能な観光振興		日高振興局	令和1年11月18日	39人
16 植田淳子	研修会・ワークショップ 講師	日高地域体験型観光研修会 第3回「地域の資源を抽出、認識」		日高振興局	令和1年11月27日	45人
17 植田淳子	研修会・ワークショップ 講師	日高地域体験型観光研修会 第4回「アイデア出し、行動計画の作成」		日高振興局	令和1年12月11日	43人
18 藤田武弘	全体会議(パネリス ト)	知のネットワーク活用による真の地方創生の実現に向けて	大学連携会議・学輪IDA	長野県飯田市	令和2年1月25日	120人
19 岸上光克	講演	食農教育の重要性	野菜袋栽培体験学習 講演会	JAわかやま	令和2年1月30日	30人
20 湯崎真梨子	セミナー 講演講師	野生のいのちをいただく、人どけもの距離	ワダイノカブエvol.16	和歌山市, 和歌山大学	令和2年1月30日	19人
21 大浦由美	研修会	森林環境譲与税の内容と活用のポイント	田辺市議会議員研修	田辺市議会	令和2年1月31日	35人
22 岸上光克	基調講演	マーケティングに対応した園芸産地づくり	令和元年度滋賀県園芸振興大会	滋賀県農業技術振興センター・滋賀県園芸 農産振興協議会	令和2年2月26日	300人

4-(1) 学会発表・研究会報告等

氏名	題目	学会・研究会名	主催	開催日	場所	備考
大浦由美	国有林野法改正の問題点と今後の課題へのコメント	東京林業研究会例会	東京林業研究会	平成31年4月21日	東京都江東区古石場文化センター	
岸上光克・辻和良 藤田武弘	農産物直売所の展開と近年の多様な取り組み	日本農業市場学会2019年度大会(セッション報告)	日本農業市場学会	令和1年7月7日	神戸大学	
藤田武弘	農産物直売所の新たな展開に求められる機能と役割 — 交流・体験型直売所の展開を中心に —	日本農業市場学会2019年度大会(セッション報告)	日本農業市場学会	令和1年7月7日	神戸大学	
辻和良	セッジョン 農産物直売所の新たな展開に求められる機能と役割 — 交流・体験型直売所の展開を中心に —	日本農業市場学会2019年度大会(セッション座長)	日本農業市場学会	令和1年7月7日	神戸大学	
辻和良・植田淳子 岸上光克・戴容秦思	農業体験参加者の交流・体験に関する意識と行動	日本農業市場学会2019年度大会(セッション報告)	日本農業市場学会	令和1年7月7日	神戸大学	
菊地昌弥・岸上光克	日本短角種における産地の停滞の一因と産地マーケティングの新たな取り組み — 大規模産地久慈市山形町のケーススタディ —	2019年度 日本農業市場学会大会 個別報告	日本農業市場学会	令和1年7月7日	神戸大学	
岸上光克	シンポジウム「産地・JAは卸売市場との連携をどう強化するか」	第52回農産物流通研究会	一般社団法人 農業開発研修センター	令和1年9月13日	滋賀県農業教育情報センター	
戴容秦思・鄭海晶 清水池義治・根鎖	「マニフェスト」以降における中国の酪農・乳業の構造変化と生乳流通の課題 — 内モンゴル自治区フフホト市での現地調査をふまえて —	日本流通学会関西・中四国部会第128回定例研究会	日本流通学会関西・中四国部会	令和1年9月28日	桃山学院大学梅田サテライト	
岸上光克	パネルディスカッション「運営検討部会」	2019全国廃校活用セミナー in 秋津野ガルテン	一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構	令和1年10月4日	秋津野ガルテン	
三谷 隆彦	和歌山の特産品、梅と山椒の機能性	種子生理生化学研究会・公開講演会	種子生理生化学研究会	令和1年11月15日	和歌山商工会議所	
三谷 隆彦	梅フェノール化合物(OP)のうがいによるかぜ・インフルエンザの予防 — 健康人に対する9週間、二重盲検試験 —	和歌山県医学会総会	和歌山県医師会	令和1年11月17日	アパローム紀の国	
岸上光克	テロワール・ツーンリズムの現状 — 島根県ワイン産業を事例として —	農業理論研究会 定例研究会	農業理論研究会	令和1年12月8日	和歌山県民文化会館	
植田 淳子	日本のグリーンツーリズム(農業観光)について	UNWTO-JICA Future Tourism Leaders Workshop	UNWTO、和歌山大学、JICA 共催	令和2年2月26日	和歌山大学	
鄭海晶・戴容秦思 根鎖・清水池義治	大手乳業との契約解消後の酪農家の生乳出荷形態と再編論理 — 中国内蒙古自治区フフホト市を事例に —	2020年度 日本農業経済学会大会	日本農業経済学会	令和2年3月29日	東北大学	
清水池義治・戴容秦思	全城停電がミルクプラライチェンに及ぼす影響と既存対策の検討 — 平成30年北海道胆振東部地震を事例として —	2020年度 日本農業経済学会大会	日本農業経済学会	令和2年3月30日	東北大学	

4-(2) 科学研究費・その他競争的資金、委託研究等

氏名	課題名	競争的資金名	主催機関	代表・分担別	備考
1 藤田武弘	市民農園の新たな展開方式による都市農業再生方策に関する研究	平成30年度～令和2年度共同研究	JAわかやま	研究代表者	研究分担者 大浦由美、辻和良 植田淳子、藤井至
2 藤田武弘	ツーリズム・テロワール概念を活かした食農連携の再構築と地域活性化への貢献に関する研究	令和1年度 研究開発助成事業	公益財団法人江頭 ホスピタリティ事業 振興財団	研究代表者	研究分担者 岸上光克、藤井至
3 辻 和良	地方創生時代の農産物直売所に求められる機能と新たな運営方式に関する研究	平成29年度～令和1年度 基盤研究(C)	日本学術振興会	代表者	研究分担者 岸上光克、藤田武弘 植田淳子
4 戴容秦思	企業の酪農参入についての実態調査研究	平成30年6月～令和1年12月 受託研究	雪印メグミルク株式 会社酪農総合研究 所	研究分担者	代表:清水池義治 (北海道大学農学部)
5 戴容秦思	平成30年北海道胆振東部地震によるミルクサプライチェーンへの影響と災害発生時の対応に関する研究	令和1年4月～令和2年3月 受託研究	一般社団法人Jミルク	研究分担者	代表:清水池義治 (北海道大学農学部)
6 大浦由美	ブドウハゼの再生と利活用による地域産業複合体形成	令和1年度 地域活性化推進研究プロジェクト	和歌山大学	研究分担者	代表 藤田和史 (和歌山大学経済学部)
7 大浦由美	「木の国わかやま」における木育活動の効果的な普及と紀州材活用促進	大学等地域貢献促進事業 令和1年度	高等教育機関コン ソーシアム和歌山	研究代表者	研究分担者 高橋多美子(和歌山大学 教育学部)、花岡隆行(和 歌山信愛女子短期大学)、 野村真弘(和歌山信愛女子 短期大学)、古久保綾子 (和歌山大学)、阪田由美 子(和歌山信愛女子短期大 学)
8 湯崎真梨子	神社立地の災害安全性分析に基づく先人の防災認識の可視化	令和1年度～令和3年度 科学研究費助成事業挑戦的研究 (萌芽)	日本学術振興会	分担者	代表:中島敦司 (和歌山大学システム工学 部)
9 湯崎真梨子	条件不利地を対象とした森林エリアネットワーク美用化のための運用技術の研究開発	令和1年度～令和3年度 基盤研究C	日本学術振興会	分担者	代表:塚田晃司 (和歌山大学システム工学 部)

4-(3) 寄付金の受入

寄付金額	寄付者	寄付金の名称	目的	受入年
1 300,000	山本勝之助商店	地域活性化総合センター寄付金	和歌山大学の教育・研究及び地域貢献のため	平成31年4月
2 500,000	一般財団法人和歌山大学経済学部後援会	地域活性化総合センター寄付金	農業・農村体験(インターンシップ)事業のため	令和1年11月
3 1,000,000	山本勝之助商店	地域活性化総合センター寄付金	和歌山大学の教育・研究及び地域貢献のため	令和2年3月

4-(3) 特許の出願

	発明者氏名	発明の名称	出願番号	出願年月日	備考
1	三谷 隆彦	サンシヨオオール類の安定化方法、サンシヨオオール類含有組成物、及びその製造方法	PCT/JP2019/034878	令和1年8月23日	国際特許出願 (PCT出願)
2	三谷 隆彦	サンシヨオオール類の安定化方法、サンシヨオオール類含有組成物、及びその製造方法	特願2018-156314	平成30年8月23日 早期審査請求 平成31年4月15日	早期審査による 特許取得 令和1年8月17日

4-(4) その他(雑誌論説、研究報告書・研究資料、新聞記事、テレビ・ラジオ出演など)

氏名	分類	題目	機関名・巻号名	発行所・番組名称等	掲載日等	備考
1 湯崎真梨子	新聞記事	ふるさとの食卓	連載記事 110回～133回	熊野新聞	令和1年4月6日～ 令和2年3月14日現在	
2 湯崎真梨子	新聞記事	こんなんしてます。わだいとまわり	連載記事 179回～202回	わかやま新報	令和1年4月8日～ 令和2年3月3日現在	
3 岸上光克	新聞	JAWわかやま和歌山大で寄付講義		日本農業新聞	平成31年4月13日	
4 岸上光克	テレビ	梅干しとウナギの食べ合わせ		テレビわかやま	平成31年4月16日	
5 岸上光克	新聞	JAWわかやま若手職員らが研究会		日本農業新聞	平成31年4月20日	
6 戴容秦思	雑誌連載	食卓の向こう側	さしわだ所報 連載コラム No.817～No.822	岸和田商工会議所	令和1年5月10日～ 令和1年10月10日	
7 辻和良	機関紙記事	和歌山県内の直売所の動向と今後の課題	全国農産物直売ネットワーク第23号	全国農産物直売ネットワーク	令和1年7月1日	
8 湯崎真梨子	雑誌寄稿	清らかに香り高さぶどう山椒 ー紀伊の国の山村からの贈りもの	VISTA No.115	公益財団法人 味の素食の文化センター	令和1年8月1日	
9 戴容秦思	雑誌寄稿	最近の消費者による食肉の潜在需要について	畜産の情報	独立行政法人 農畜産業振興機構	令和1年10月号	
10 岸上光克	テレビ	和歌山(市)の牛肉年間購入量 日本一のなぞ	ぎゅぎゅとわかやま データアイ	NHKわかやま	令和1年10月3日	
11 岸上光克	新聞	廃校活用し地域づくり		紀伊民報	令和1年10月8日	
12 岸上光克	新聞	現代の食と農探る		日本農業新聞	令和1年10月9日	
13 岸上光克	新聞	JAWわかやま職員が大学講師に		日本農業新聞	令和1年10月23日	
14 植田淳子 原見知子	新聞記事	東牟婁地域で初の開催 和歌山大学が現地研究会		紀南新聞	令和1年11月27日	
15 植田淳子 原見知子	新聞記事	「人こそが地域を創る」 和歌山大による現地研究会		熊野新聞	令和1年11月27日	
16 岸上光克	雑誌・特集	農村における地域づくりの最前線ー田辺市上秋津 地域の新たな挑戦ー	地域経済 第23号	和歌山地域経済研究機構	令和1年12月号	
17 岸上光克	雑誌・特集	経済団体による地方創生の可能性 ー「共創」の地域づくりへー	地域づくり 本編	一般財団法人 地域活性化センター	令和2年2月号	
18 三谷隆彦	テレビ	ブーム到来・山椒の科学	所さんの目がテン	読売テレビ	令和2年2月23日	
19 辻和良	新聞記事	直売所を核とした交流(現場からの農村学教室)		日本農業新聞	令和2年2月23日	
20 岸上光克	報告書	高齢者社会に対応した低需要部位による商品開発 ー栄養素を付加した商品開発ー	国産食肉等の新需要創出へのチャレンジ	公益社団法人 日本食肉消費総合センター	令和2年3月	
21 戴容秦思	報告書	日本食肉協会による新需要創出事業と商品開発 企業の取組みー株式会社オヤマの事例ー	国産食肉等の新需要創出へのチャレンジ	公益社団法人 日本食肉消費総合センター	令和2年3月31日	

## 5. 研究所活動

### (1) 運営委員会 食農アドバイザー会議

#### ○運営委員会

	開催日	場所	開催内容	備考
1	令和1年6月20日	和歌山大学 西3号館 第3会議室	1) 平成30年度食農総合研究所事業報告について 2) 令和1年度食農総合研究所事業計画について 3) アドバイザリーボードについて 4) その他	
2	令和2年3月5日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	1) 令和1年度食農総合研究所事業報告について 2) 令和2年度以降の食農総合研究所について 3) その他	

#### ○食農アドバイザー会議

	開催日	場所	開催内容	備考
1	令和1年7月31日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	1) アドバイザリーボード・メンバー委嘱 2) 平成30年度研究所事業報告について 3) 令和1年度研究所事業計画について 4) 意見交換 5) その他	

## 5. 研究所活動

### (2) 所内会議

	開催日	開催内容	備考
1	平成31年4月1日	食農総合研究所の新たな体制における報告と自己紹介、今後の活動予定、今年度の取組についてなど	
2	平成31年4月8日	食農総合研究所の事業計画、体制、各種会議についてなど	
3	平成31年4月22日	食農総合研究所パンフレットの修正、寄付講義、運営委員会、地方創生推進・食農協議会、食農アドバイザーボードについてなど	
4	令和1年5月13日	食農総合研究所公開セミナーと研究ユニットセミナーの開催、寄付講義についてなど	
5	令和1年5月27日	運営委員会、地方創生・食農協議会、食農アドバイザーボードミーティングの開催、共同研究・受託研究の受入についてなど	
6	令和1年6月10日	運営委員会の開催、食農アドバイザーボードミーティングの開催、研究ユニット共通会議の開催、公開セミナーについてなど	
7	令和1年6月24日	食農アドバイザーボードミーティングの開催、都市農村共生ユニット現地交流会、研究所セミナー、ホームページの充実、3年間のとりまとめパンフレットについてなど	
8	令和1年7月8日	研究ユニット参加教員の公募と研究ユニット活動、研究所公開セミナー、農業・農村版インターンシップ、各教員、オフィスの取組状況についてなど	
9	令和1年7月22日	食農アドバイザーボードミーティングの開催、研究所公開セミナーと研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究の受け入れ促進についてなど	
10	令和1年8月5日	食農総合研究所後援フォーラム、研究所セミナー、都市農村共生研究ユニットセミナー、JAわかかやま寄付講義、江頭財団寄付講義についてなど	
11	令和1年8月26日	都市農村共生ユニット現地交流会、共同研究・受託研究の受け入れ促進、JAわかかやま寄付講義、江頭財団寄付講義についてなど	
12	令和1年9月17日	ICT現地実証実験の開催、研究所公開セミナー・研究ユニットセミナー、各教員、オフィスの取組状況についてなど	
13	令和1年10月7日	食農総合研究所公開セミナー・研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究の受け入れ促進、JAわかかやま寄付講義の開催についてなど	
14	令和1年10月21日	食農総合研究所公開セミナー・研究ユニットセミナー、寄付講義「地域づくりの理論と実践」、JAわかかやま寄付講義、地域おこし協力隊ヒアリング調査についてなど	
15	令和1年11月5日	令和2年3月に運営委員会の開催、食農アドバイザーボードミーティングの開催、研究ユニット共通会議の開催、研究所セミナー、共同研究・受託研究の状況報告、年報について	
16	令和1年12月2日	公開セミナー・研究ユニットセミナーの報告、共同研究・受託研究報告、寄付講義の状況報告、和歌山農業展開史の状況報告など	
17	令和1年12月16日	研究所公開セミナーと研究ユニットセミナー開催の報告、寄付講義、ホームページの拡充、研究所年報についてなど	

## 5. 研究所活動

### (2) 所内会議

	開催日	開催内容	備考
18	令和2年1月6日	今年度予算執行状況、論文投稿、年度内の会議予定についてなど	
19	令和2年1月27日	運営委員会、地方創生・食農協議会、食農アドバイザリーボードミーティングの開催、共同研究・受託研究、寄付講義、研究所年報についてなど	
20	令和2年2月3日	運営委員会、地方創生・食農協議会、食農アドバイザリーボードミーティングの開催、研究所公開セミナーと研究ユニットセミナーの開催、ホームページの拡充、農業・農村モニタリングの実施についてなど	
21	令和2年2月17日	運営委員会、地方創生・食農協議会、食農アドバイザリーボードミーティングの開催、研究所公開セミナーと研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究についてなど	
22	令和2年3月2日	運営委員会、地方創生・食農協議会、共同研究、受託研究の進捗状況、研究年報、研究成果報告についてなど	
23	令和2年3月16日	令和1年度事業結果、令和2年度活動内容についてなど	

## 5. 研究所活動

### (3) 研究所研究ユニット会議

	会議名	開催日	場所	開催内容	備考
1	研究ユニット全体会議	令和1年6月10日	和歌山大学 北4号館 産学連携イノベーション センター 多目的研究室	1) 令和1年度食農総合研究所事業計画(案)について 2) 各研究ユニットの本年度の取組について 3) その他(意見交換・意見聴取)	
2	ICT活用研究ユニット会議	令和1年7月21日	秋津野ガルテン	1) スマート農業について 2) 農業におけるドローン活用について 3) その他(意見交換・意見聴取)	
3	ICT活用研究ユニット会議	令和1年10月13日	秋津野ガルテン	1) スマート農業について 2) 和歌山県におけるスマート農業の方針について 3) その他(意見交換・意見聴取)	
4	ICT活用研究ユニット会議	令和1年11月17日	秋津野ガルテン	1) スマート農業について 2) 園地センサーの概要について 3) その他(意見交換・意見聴取)	
5	ICT活用研究ユニットワークショップ	令和2年1月20日	南紀白浜エアポート クオリティソフト 近畿大学水産研究所	1) 各組織におけるICTの取り組み概要について 2) その他(意見交換・意見聴取)	
6	研究ユニット全体会議	令和2年3月4日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	1) 各研究ユニットの本年度の取組について 2) 令和2年度以降の食農総合研究所について 3) その他	

## 5. 研究所活動

### (4) 教育活動への寄与

	講義名	講義内容	受講者	備考
1	農業経営特論 (辻和良)	今日の農業経営者は経営を取り巻く環境に対して積極的に対応していくことが必要である。農業経営特論では、経営者が外部の環境と対応する際に必要な市場の仕組みや地域農業、経営の多角化、マーケティング等の基礎知識の習得を目指す。	17人	和歌山県農林大学校
2	わかやま観光事情 (辻和良・観光学部の講義を担当)	「有田ミカンの産地展開と今日」について講義	70人	和歌山大学 後期 木曜1限 令和1年12月5日
3	食と農のこれからを考える	寄付講義	250人	和歌山大学 後期 火曜5限
4	地域づくりの理論と実践	寄付講義	30人	秋津野ガルテン 通年 全5回
5	食料経済 (岸上光克・経済学部の講義を担当)	食料をめぐる諸問題について経済学的側面から講述する。食料政策の展開、食農ビジネスの現状、食料消費・食生活・食環境の変化とその要因、食料の生産・流通などについて講述し、これらの食料政策の特徴と問題点・課題を検証しながら、日本の食料需給・食生活をめぐって考察する。	90人	和歌山大学 前期 火曜1限
6	農業政策 (岸上光克・経済学部の講義を担当)	日本の食料自給率は先進国のなかで最低の水準となっている。現在、安全・安心で安定的に食料を供給するための農業・農村政策の展開が求められている。そこで、わが国の農業・農村政策の展開過程を講述するとともに、今後の政策展開のあり方について考察する。	276人	和歌山大学 後期 火曜1限
7	農山村再生戦略 (岸上光克)	農山村は、危機的状況にあるが、地域の農林業を基軸とした「内発的発展」、「地域づくり」により、地域活性化を図る動きもある。本講義では、農山村の実態を概説し、多様な全国事例から地域再生の手がかりを考える。	8人	和歌山県農林大学校
8	地域ブランド論 (戴容秦思・藤田和史 岸和田サテライト学部開放科目(後期))	本科目のねらいは、地域ブランドと地域経済について学び、その関わりについて理解する。地域活性化の名の下に、多くの地域が地場産業・産品のブランド化に取り組んでいる。それらの事例の中で、優良な地域ブランドとその手法や戦略管理について、具体的な事例を取り入れながら学ぶ。また、フィードバックを通して現場への理解を深める。	計15名 (学生4名 社会人11名)	和歌山大学 土曜13～17時 リカレント教育対応授業
9	観光と食料農業 (植田淳子・観光学部の講義を担当)	近年、農業・農村には様々な役割が求められており、地域の特色を活かしながら取り組みを行っているところも多く、その担い手として若者や高齢者、女性等が注目されている。本講義では「食」や「農」を取り巻く社会的な動きを把握すると共に、地域で活動する団体や人に焦点を当てて概説し、農業や農村の現状について理解を深める。	43人	和歌山大学 後期 火曜5限
10	食農地域づくり特論 (大浦由美、藤田武弘、岸上光克、辻和良、杵本敏男、植田淳子、戴容秦思、平田隆行)	現代の「食」と「農」の関係性を問い直すための視座を与えるとともに、食料・農業問題や農業経営、地域づくりをめぐる現状と課題、および「田園回帰」時代の都市と農村との新たな関係性を踏まえた地域資源勝つような農村ビジネスについて学び、持続可能な地域社会づくりの方向性について展望する。	5人	和歌山大学 前期 土曜13～17時 南紀熊野サテライト開講科目 前期・大学院

## 5. 研究所活動

### (5) 研究所成果報告・研究年報・研究所たよりなど

	種類	発行日	内容	備考
1	研究成果第11号	令和2年2月	交流・体験型農産物直売所の現状と課題 —全国JAアンケートおよび現地調査結果をもとに—	
2	研究成果第12号	令和2年2月	一般社団法人南紀州交流公社の都市農村交流の取り組みと課題 (2019年度都市農村共生研究ユニット現地交流会記録)	
3	研究成果第13号	令和2年2月	地方創生時代の農産物直売所に求められる機能と新たな運営方式 —交流・体験型直売所の展開を中心に— (2019年度和歌山大学食農総合研究所現地研究会記録)	
4	研究成果第14号	令和2年3月	和歌山県農業展開史Ⅱ	
5	令和1年度研究年報	令和2年3月	食農総合研究所研究年報	



## 6. 參考資料

別 添 資 料



## 食農総合研究所設置要項

平成28年3月29日学長決裁

平成29年3月30日一部改正

### (趣旨)

第1条 この要項は、和歌山大学地域イノベーション機構地域活性化総合センター規則第4条第3項の規定に基づき、和歌山大学地域イノベーション機構地域活性化センター食農総合研究所（以下「研究所」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 研究所は、和歌山圏域を中心に、食と農林水産業（以下「食農」という。）の分野に関わる研究活動を通じて、学術研究の発展と地域社会との連携や地域貢献機能の強化に資することを目的とする。

### (業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 食農の分野にかかわる研究・調査
- (2) 学術研究発展のための学内研究交流
- (3) 学内外ネットワークの構築による競争的資金の獲得及び受託・共同研究
- (4) 学術情報の集積と発信・交流
- (5) 多様な学内外における教育機会の提供と寄与
- (6) 地方創生と地域活性化への貢献
- (7) その他、研究所の目的達成に必要な事項に関すること

### (組織)

第4条 研究所は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 所長
- (2) 所員
- (3) 特任教員
- (4) 特任職員

2 所長は、本学教員の中から、役員会の議を経て、学長が任命する。

3 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、所長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 研究所には、必要に応じて副所長を置くことができる。

### (研究部門)

第5条 研究所に、次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 都市農村共生研究部門

都市と農山漁村の交流・共生・協働による新たなライフスタイルを探求しその定着に資する研究部門

(2) 地域資源活用研究部門

地域資源の利活用と新たな価値創造を通じた自立的・持続的社会的システムの構築に資する研究部門

(3) ICT活用研究部門

洗練され高度化されたICT（情報通信技術）等活用による食と農の新たな関係構築に資する研究部門

2 前項のほか、業務の内容に応じ研究ユニットを配置することができる。

(運営委員会)

第6条 研究所に、運営委員会を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

(1) 所長

(2) 学部から推薦された者（原則として各学部1名）

(3) その他所長が必要と認めた者

3 地域連携担当の理事又は副学長は、委員会に出席することができる。

4 その他、運営委員会に関する事項は、所長が別に定める。

(地方創生推進・食農協議会)

第7条 研究所に、地方自治体、農業協同組合、食農関連産業界等の参画を得て、地方創生推進・食農協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2 協議会に関する事項については、別に定める。

(地域創生・食農アドバイザーボード)

第8条 研究所に、地方創生・食農アドバイザーボード（以下「アドバイザーボード」という。）を置く。

2 アドバイザーボードに関する事項については、別に定める。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この改正要項は、平成29年4月1日から施行する。

# 食農総合研究所運営委員会規程

所長制定 平成29年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、食農総合研究所設置要項第6条第4項の規定に基づき、運営委員会に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、食農総合研究所の運営方針及び事業計画その他重要事項について審議する。

(議長)

第3条 運営委員会に議長を置き、所長をもって充てる。  
2 議長に事故あるときは、あらかじめ所長の指名する者がその職務を代行する。

(任期)

第4条 運営委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、任期中欠員が生じ、これを補充した場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(議事)

第5条 運営委員会は、構成員の2分の1以上の出席により成立し、議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(構成員以外の出席)

第6条 運営委員会が必要と認める場合は、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(委員会の事務)

第7条 委員会の事務は、研究・社会連携課が行う。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

令和1年度 運営委員会委員名簿

氏名	所属
荒木 良一	教育学部
阿部 秀二郎	経済学部
橋本 正人	システム工学部
永瀬 節治	観光学部
大浦 由美	食農総合研究所所長
藤田 武弘	食農総合研究所副所長
岸上 光克	食農総合研究所副所長

## 食農総合研究所 地方創生推進・食農協議会規約

### (趣旨)

第1条 この規約は、食農総合研究所設置要項第7条第2項の規定に基づき、地方創生推進・食農協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

### (協議事項)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 食農総合研究所（以下「研究所」という。）の目的達成に関する事
- (2) 研究所の業務推進・研究活動に関する事
- (3) その他、食農分野にかかわる地方創生と地域活性化に関する事

### (組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる組織の代表または推薦のあった者をもって構成する。

### (会長)

第4条 協議会に会長を置く。会長は協議会委員の互選により選出する。

- 2 会長は、協議会の議長となる。
- 3 会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代行する。

### (招集)

第5条 協議会は、研究所所長が招集する。

- 2 協議会への旅費・手当等の支給は、国立大学法人和歌山大学旅費規定による。

### (委員以外の者の出席)

第6条 研究所所長が必要と認めたときは、協議会に委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

### (実務者会議)

第7条 協議会に、協議会の運営等に関し、必要な事項を協議するため、実務者会議を置く。

- 2 実務者は、委員所属の組織から推薦のあった者とする。

### (事務)

第8条 協議会の事務は、研究・社会連携課及び研究所オフィスにおいて行う。

### 附則

この規約は、平成28年6月28日から施行する。

### 附則

この改正規約は、平成29年4月1日から施行する。

### 別表（第3条関係）協議会委員

所属	職名等
和歌山県	農林水産部長
和歌山県市長会	市長会代表または推薦者
和歌山県町村会	町村会代表または推薦者
和歌山県農業協同組合中央会	会長または推薦者
和歌山県森林組合連合会	会長または推薦者
和歌山県漁業協同組合連合会	会長または推薦者
公益財団法人わかやま産業振興財団	代表または推薦者
和歌山県食品産業協議会	会長または推薦者

令和1年度 地方創生推進・食農協議会委員

所 属	職 名	氏 名
和歌山県	農林水産部長	角谷 博史
和歌山県市長会	会長	望月 良男
和歌山県町村会	会長	小谷 芳正
和歌山県農業協同組合中央会	会長	中家 徹
和歌山県森林組合連合会	代表理事会長	眞砂 佳明
和歌山県漁業協同組合連合会	代表理事会長	木下 吉雄
公益財団法人わかやま産業振興財団	専務理事	福田 良輔
和歌山県食品産業協議会	会長	妙中 清剛

令和1年度 地方創生推進・食農協議会実務者会議メンバー

所 属	職 名	氏 名
和歌山県 農林水産総務課	政策企画班長	川村 実
和歌山県市長会	事務局長	若林 誠治
和歌山県町村会	事務局長	土井 敏弘
和歌山県農業協同組合中央会 (JAグループ和歌山農業振興センター)	センター長	虎伏 秀
和歌山県森林組合連合会	代表理事専務	畑田 和伸
和歌山県漁業協同組合連合会	事務局長	宮田 雅之
公益財団法人わかやま産業振興財団	経営支援部 部長	永井 達郎
和歌山県食品産業協議会 (和歌山県食品流通課)	事務局長	赤坂 武彦

# 食農総合研究所 地方創生・食農アドバイザーボード規約

制 定 平成28年6月28日

最終改正 平成30年5月18日

## (趣旨)

第1条 この規約は、食農総合研究所設置要項第8条第2項の規定に基づき、地方創生・食農アドバイザーボード（以下「アドバイザーボード」という。）の役割及び運営について定めるものとする。

## (役割)

第2条 アドバイザーボードは、次の各号に掲げる事項について意見を述べることができる。

- (1) 食農総合研究所（以下「研究所」という。）の目的達成に関すること
- (2) 研究所の業務推進・研究活動に関すること
- (3) その他、食農分野に関わる地方創生と地域活性化に関すること

## (構成)

第3条 アドバイザーボードの構成員（以下「アドバイザー・メンバー」という。）は、食農分野に関し高い見識を有する者のうちから、研究所運営委員会の議を経て学長が委嘱する。

## (任期)

第4条 アドバイザーボード・メンバーの任期は、委嘱日から当該年度の末日を超えないものとし、再任を妨げない。

## (報酬等)

第5条 アドバイザーボード・メンバーには、本学の規定に基づき、謝金及び交通費（旅費）を支給することができる。

## (ミーティング等)

第6条 第2条に関わる意見を聴取するため、アドバイザーボード・ミーティングを原則として年1回開催する。

2 前項の規定に関わらずアドバイザーボード・メンバーは随時、研究所に対して意見を述べるすることができる。

## (招集)

第7条 前条第1項に規定するアドバイザーボード・ミーティングは、研究所所長が招集する。

## (事務)

第8条 アドバイザーボードの事務は、研究・社会連携課において行う。

## 附則

この規約は、平成28年6月28日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

## 附則

この改正規約は、平成29年4月1日から施行する。

## 附則

この改正規約は、平成30年5月18日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

令和1年度 地方創生・食農アドバイザーボード・メンバー

所 属	氏 名
和歌山バイオサイエンス連絡協議会 事務局長	鵜飼 俊行
大阪商業大学 経済学部教授	大西 敏夫
京都橘大学 現代ビジネス学部教授	岡田 知弘
農業法人株式会社秋津野 社長	木村 則夫
チョーヤ梅酒株式会社 専務	金銅 俊二
株式会社Citrus代表	佐々木 茂明
和歌山大学名誉教授	橋本 卓爾
那智勝浦町 色川地域振興推進委員会 副会長	原 和男
辻調理師専門学校 企画部長・産学連携教育推進室長	尾藤 環
長野県 飯田市長	牧野 光朗
日本総合研究所 調査部主席研究員	藻谷 浩介

## 食農総合研究所 研究ユニットの設置及び活動について (申し合わせ)

食農総合研究所設置要項第6条に基づく研究ユニットの設置及び活動については、以下のとおり申し合わせる。

### <研究ユニットの設置>

- ① 研究ユニットは、都市農村共生、地域資源活用、ICT活用の研究部門ごとに設置する。このほか教育ユニットを設置することができる。
- ② 研究ユニットの構成は、本学教員（専任教員及び特任教員）に限る。なお、食農総合研究所・所内会議で必要と認めるときは、客員教員も参加することができる。
- ③ 研究ユニットへの参加は、毎年公募による。ただし、参加希望があれば随時受付することができる。また、研究ユニットへの参加は、複数のユニットに参加できることとする。
- ④ 研究ユニットへの参加教員の任期は、4年間（平成28年度～令和1年度）とする。ただし、退職（任期切れ）や本人の申し出により参加を取り止めることができる。
- ⑤ 研究ユニットへの参加教員は、食農総合研究所・所内会議で確認するとともに、毎年、学長並びに各部局に報告する。

### <研究ユニットの運営と活動>

- ⑥ 研究ユニットリーダーは、食農総合研究所の特任教授並びに専任教員を中心に研究ユニット会議で決める。
- ⑦ 研究ユニットは、研究交流、研究サロンやセミナー等の開催、プロジェクト研究（競争的資金の獲得、共同研究・受託研究等）などに取り組むことができる。
- ⑧ 各研究ユニットの運営方法は、ユニット会議に委ねる。

### <その他>

- ⑨ 研究ユニットの設置及び活動に関わってその他必要な事項は、食農総合研究所・所内会議で決める。

平成28年7月19日  
食農総合研究所

令和1年度 研究ユニット参加教員一覧

	氏名	所属部局	専門分野
1	山口 真範	教育学部	農芸化学
2	荒木 良一	教育学部	植物育種、植物栄養
3	海津 一朗	教育学部	日本中世史
4	高橋 多美子	教育学部	幼児教育（子どもと自然との関わり）
5	藤田 和史	経済学部	人文地理学
6	岩田 英朗	経済学部	情報科学（認知科学）
7	クパニ ルンビディ	経済学部	リーン生産システム（日本のものづくり）、SCM
8	平田 隆行	システム工学部	建築計画（生活空間）、農村計画・環境社会学
9	原 祐二	システム工学部	景観生態学
10	吉廣 卓哉	システム工学部	情報ネットワーク、無線通信
11	坂本 隆	システム工学部	生物有機化学
12	佐久間 康富	システム工学部	都市、地域計画
13	宮川 智子	システム工学部	都市・農村計画
14	宮本 伸一	システム工学部	無線通信方式
15	満田 成紀	システム工学部	社会情報学
16	八島 雄士	観光学部	管理会計
17	大浦 由美	観光学部	森林経済学
18	永瀬 節治	観光学部	都市計画、まちづくり、景観・歴史的環境保全
19	藤田 武弘	観光学部	地域資源の発掘・活用、都市と農山村交流・協働
20	大井 達雄	観光学部	観光統計、企業不動産マネジメント
21	秋山 演亮	「教養の森」ユニット	宇宙インフラ利用
22	西川 一弘	地域活性化総合センター	社会教育学
23	岸上 光克	食農総合研究所	農産物流通、農協共販、農商工連携・6次産業化
24	杵本 敏男	食農総合研究所	肥料学、地域未利用資源の活用
25	辻 和良	食農総合研究所	都市農村共生、農業経営学
26	植田 淳子	食農総合研究所	グリーンツーリズム、農村ツーリズム
27	戴 容秦思	食農総合研究所	農畜産物流通、フードシステム、バリューチェーン
28	三谷 隆彦	食農総合研究所	食品科学
29	湯崎 真梨子	食農総合研究所	農村社会学、農村起業、内発的発展

研究ユニット参加教員 30名

- ①都市農村共生研究ユニット参加教員 13名
- ②地域資源活用研究ユニット参加教員 25名
- ③ICT活用研究ユニット参加教員 11名

令和1年度 食農総合研究所メンバー

氏名	職名
山本 進三	和歌山大学理事（社会連携）・副学長
大浦 由美	食農総合研究所所長 観光学部教授
藤田 武弘	食農総合研究所副所長 観光学部教授
岸上 光克	食農総合研究所副所長 教授 地域資源活用研究ユニットリーダー
杵本 敏男	食農総合研究所特任教授
辻 和良	食農総合研究所特任教授 都市農村共生研究ユニットリーダー
植田 淳子	食農総合研究所特任助教
戴 容秦思	食農総合研究所特任講師 ICT研究ユニットリーダー
三谷 隆彦	食農総合研究所客員教授
湯崎 真梨子	食農総合研究所客員教授
八幡 康子	食農総合研究所研究支援員
森中 崇文	研究・社会連携課長
小田 明広	研究・社会連携副課長
永沼 美和	研究・社会連携課地域連携係長
西岡 靖倫	食農総合研究所・域学連携コーディネーター
宮本 貴世子	食農総合研究所事務補佐員
小川 八絵子	食農総合研究所事務補佐員

発 行

和歌山大学 食農総合研究所オフィス  
(地域活性化総合センター)

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

Tel : 073-457-7126 Fax : 073-457-7133

e-mail : syokuno@ml.wakayama-u.ac.jp